

第6章

結論

6.1 序言

本章では本論文のまとめを行う。

以下に本章の構成を示す。まず、関連研究の調査、提案手法の実装、および評価実験等、本研究を通して得られた知見を6.2節で述べる。次に今後の課題と展望を6.3節で述べる。最後に、6.4にて本研究のまとめを示す。

6.2 得られた知見

本研究を通して、次の知見が得られた。

知見1 分散表現の類似度を発言の話題変化の判定に使うことができる

知見2 リアルタイムな議論での動作を想定した話題の変化の判定システムを提案した

知見 1 分散表現の類似度を発言の話題変化の判定に使うことができる

本研究では、分散表現を用いて 2 つの発言間の類似度を計算する手法を提案した。実験の対象となる議論と類似したデータを事前学習してから実際に適用を行う機械学習的手法とは異なり、汎用的なデータで分散表現を作り時間差や返信関係を組み合わせた手法を使用して実際の議論に適用させた点が、本研究の特色として挙げられる。

知見 2 リアルタイムな議論での動作を想定した話題の変化の判定システムを提案した

本研究では、リアルタイムな議論での動作を想定して

6.3 今後の課題と展望

6.4 本研究のまとめ